

“Law 12 Knock-on or Throw Forward” を考える

ゲーム中、レフリーの判断で多々問題視されるのがノックオンとスローフォワードです。オフサイドや危険なプレーより、観る側にとって「ああ！！スローフォワード」とか「今のノックオンだろう！！」とわかりやすいという面があると思います。

ノックオンは^{ました}真下、スローフォワードは^{まよこ}真横が反則ではないことから話を始めます。このことは Law を過去から復習することによって要点が明確に示されています。

レフリーが見えなかったのに想像して笛を吹いてはいけませんし、仮に笛を吹くのであれば正確に見えることが出来る位置にいなければなりません。そのためにはよいランニングコースを走ることが要件です。

THE HISTORY OF THE LAWS OF THE RUGBY FOOTBALL に次のような記述があります。

As far back as 1602 one reads in describing the game : “ It is prohibited to deal a foreballe ” which undoubtedly referred to “ pass forward. ”

Percy Royds (1949) “The History of the Laws Rugby Football”, Walker&Co

1602 年といえばラグビー誕生 (1823 年) 以前のことです。ラグビーを楽しむ原点を示していると言われる undoubtedly (疑いなく) と describing (故意に) という二語から当時の様子が想像できます。

1948 年の Case Law と協会の決定は興味深いものです。

1948. Case Law: “ If a player passes to one of his own team who is on a line with him parallel to the dead ball line, both players running towards the opponents goal line, must not the pass be a forward pass in relation to the ground, owing to their forward movement. ”

The R.U. decided : “ Yes, but it is pointed out that the definition of a throw-forward is not decided on relation to the ground, but on the *direction* of the *propulsion* of the ball by the hand or arm of the player passing the ball, which must be left to the discretion of the referee. ”

Percy Royds (1949) “The History of the Laws Rugby Football”, Walker&Co

“must not the pass be a forward pass in relation to the ground” が “is not decided on relation to the ground” となり “on the *direction* of the *propulsion* of the ball” となっています。

グラウンド上の前後でなくボール推進力の方向で決まるとなっています。その決定権はレフリーに残されています。

定義から見てもこの根本精神から見ても^{まよこ}真横が throw forward でないことは明らかです。また^{ました}真下も knock-on でないこともです。

^{まよこ}真横に一列にゴールラインに向かって並行して走っている 2 人の一方が^{まよこ}真横パスすればボールは惰性法則により若干前方になる軌道をとります。この場合手や腕の動きから生まれる推進力が後ろまたは^{まよこ}真横であれば throw forward ではありません。そして “must be left to the discretion of the referee” (レフリーの裁量に任せなければならない) のです。

参考 URL

<http://laws.worldrugby.org/?law=12>